

名は体を表すという。そこで、名前を付けるときは、こうあって欲しいと願いを込めるようである。診療科の名前も同じか。

一般人で、「脳神経外科」は知っているが、「脳神経内科」という診療科があることを知らない人もいるだろう。実は、もともとあった「神経内科」が、「脳神経内科」と名前を変えたのである。

「神経内科」は、40年以上前、すでに誕生している。対象になる患者さんは、脳卒中や認知症、パーキンソン病などの脳・神経の病気である。脳神経外科とほとんど変わらない。ま、脳神経外科が、メスを使って病気を治す科なら、神経内科は、内科的に治療する科と考えれば分かりやすい。だが、「神経」という言葉が悪かったのか、心療内科や精神科の患者さんを診る科と間違える人が少なくなかった。

ちなみに、患者さんの正しい診断が遅れたり、適切な治療のタイミングを失くしたりする。そこで神経内科の先生たちも考えたのだろう。「神経内科」を「脳神経内科」と名前を変えるのはいいか。そうすれば、

「脳神経外科」と同じように、脳・神経の病気を診る科であると認識されやすい、と。2018年の春、「脳神経内科」がスタートしたのだ。

ちなみに、「脳神経外科」は、俗称は「脳外科」とよばれ50年以上前は、頭だけの病気、しかも外傷の患者さんだけを診る科とされていたものだ。脳だけでなく、全身の神経の病気も対象にする科だと認めてもうつにはそれ相應の時間と努力を要している。

それに比べれば、6年は短い。が、患者さんの認識は、意外と早く変わってきた。最近、脳神経内科の受診を希望する患者さんが増えてきているのだ。内科の先生と聞いただけで、優しくて丁寧に接してもらえそうに思うのも一因だろうか。ウーム。

(石黒修三「いしほろクリニック・脳神

経外科医」：北國新聞掲載)